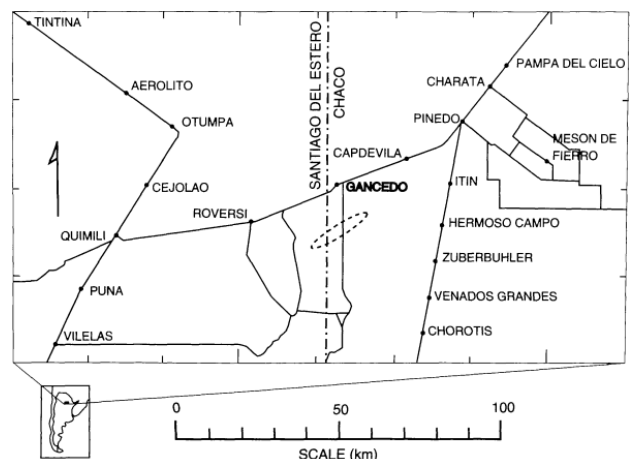




## カンポ・デル・シエロ<sup>いんせき</sup>隕石

2021年6月28日のまるちだよりで、ギャラクシティに<sup>てんじ</sup>展示している「カンポ・デル・シエロ隕石」について書きましたが、もう少し詳しく見てみることにしましょう。

この隕石は、およそ4000年～5000年前に地球に落下したとされていて、落下場所は、アルゼンチンの首都・ブエノスアイレスから北北西<sup>ほくほくせい</sup>に約860kmの場所。地球の大気圏に突入して<sup>やく</sup>から落下途中で隕石が分裂し、それらが地面に<sup>ぶんれつ</sup>衝突して大小様々のたくさんのクレーターを作りました。これを「クレーター群」と呼んでいます。クレーターの数は少なくとも20個以上あることがわかっていて、縦3km、横18.5 kmという<sup>たいきけん</sup>広範囲の領域にクレーターが存在しています。



中心の円マークがクレーターの存在しているエリアです。

クレーターの中でも最大のものは、縦115m、横91mのものがあります。分裂した隕石も小さいものでは数グラム、大きいものでは数十トンの隕石が実際に発掘されていて、発掘した隕石の総重量は100トンを超えています。

6月28日のまるちだよりにも書きましたが、この隕石は鉄を多く含んでいます。その割合は鉄が約90%、ニッケルが約10%となっており、このような隕石を「鉄隕石」と呼んでいます。その名前からわかるように、非常に重たい隕石です。発掘された隕石が日本に渡り、ギャラクシティにも展示されていまして、縦、横、高さ約10cmほどの大きさですが、重さはなんと23kgもあるのです！現在は新型コロナウイルス感染症予防対策で触れることはできませんが、触れるようになった際には重さを体験してみてください。

2021年7月26日記（解説員：伊藤 貴大<sup>かいせついん いとう たかひろ</sup>）